

# 緑化だより

No.153 令和元年9月号



ベニヒガサ

- 季節の花(ハギ)
- 昆虫の話(便所の影に潜む影  
・マダラカマドウマ)
- 小さな世界こけ(身近なコケ(7))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

9月は月曜日休園。月曜日が祝日の場合、翌日休園。



広島県立植物園  
広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園  
〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# 季節の花

ハギ

「高円(たかまど)の 野辺(のへ)の秋萩このころの

暁(あかとき)露(つゆ)に 咲きにけむかも」

大伴家持 万葉集 卷8:1605

これを訳しますと

( 高円の野辺の秋萩は、明け方早く露が葉に浮かび、

浮かんだ頃には萩は、もう咲いているであろうか)

高円は奈良市東南部、高円山を含む丘陵地帯で萩の名所として知られています。

万葉集によく詠われた高円山は中腹に、聖武天皇の宮がある美しい姿の山で、天皇がよく来られた場所です。この歌は、天皇を心より慕っていた家持(やかもち)の気持ちが込められて詠われています。

ハギはマメ科ハギ属の総称で、ヤマハギ、ツクシハギ、マルバハギなど、日本には15種5変種があります。

ネコハギやマキエハギは草本ですが、大部分は落葉低木です。花期は8～10月で、蝶に似た形の紫色や白い小さな花を咲かせます。

ハギは古くから秋の野山を代表する植物で、清楚でひかえめな日本人の心に、もっとも親しまれてきました。

万葉集の中で一番多く詠まれた植物で、140首余りもあります。山上憶良の[秋の七草]の句でも最初にハギの花から始まっています。

ハギの花が咲く頃は、イネ、クリ、ヒエなどの秋の収穫期で、ハギの花が、細い茎に赤い小さな花を沢山つける姿は、五穀豊穡のシンボルとなりました。漢名は「胡枝子」で下に垂れさがるとの意味があります。

万葉集で詠われたハギは多分、ヤマハギかツクシハギでしょう。ミヤギノハギは昔から観賞用に庭園に植えられています。これは宮城県の県花となっています。

中秋の名月にはハギとススキを月見団子と共にお供えする風習があります。

万葉の時代から、ハギの葉は乾燥して茶葉にします。種子は食用、根は婦人病の薬、樹皮は縄、小枝は垣根や屋根ふき、茶室の天井、箒、筆に使用されました。また生葉は家畜の飼料にも用いられました。ハギは万葉の人々の生活に密着した有用植物です。(上村)



ツクシハギ

# 昆虫の話

便所の隅に潜む影・マダラカマドウマ

夏から秋、森の中や薄暗い建物の中でぴょんぴょん飛び跳ねる大きな虫に遭遇することがあります。恐る恐る近づいてみると、長い触角と脚を持つコオロギのような虫がいます。この虫はカマドウマのなかまで、一般には「ベンジョコオロギ」という呼び名で知られています。その中でも特によく目にするマダラカマドウマは名前の通り、体にまだら模様のある大型のカマドウマです。



カマドウマの仲間は翅を持たず、代わりによく発達した脚で歩き回り、果実や動物の死体等を食べています。活動する時間帯は主に夜で、日中は暗い場所に隠れる習性があります。昔の家屋ではしばしば竈(かまど)に隠れていたため「カマドウマ」という名前が付けられました。また、薄暗い便所で遭遇する機会が多く、「ベンジコオロギ」という二つ名もあります。これらの名前は、カマドウマの仲間が人里でも普通に見られた頃の名残です。今では住宅の周りで見られる機会こそ減ってしまいましたが、緑化センターや森林公園の周りでは数多く観察することができます。そしてやはり、遭遇の確率が高いのは公衆便所です。



マダラカマドウマ

カマドウマの仲間は夏の終わりから秋にかけて成熟し、繁殖期を迎えます。そのため9月ごろに大型の個体を観察する機会が増えます。中でもマダラカマドウマは、人工的な構造物を好んで利用するため観察が容易です。もし公衆便所を利用する機会があったら、建物の隅に注意してみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

## 小さな世界 こけ

### 身近なコケ(7)

公園や街路樹の樹木の幹でも、いくつかのコケを見ることができます。今回はその中からセン類3種類を紹介します。

ヒロハツヤゴケは、幹や岩の上などにマットをつくります。乾燥や大気汚染にも強いため、公園などでも普通に見ることができます。茎は羽状に分岐した枝に、葉は茎を包むように扁平に左右に並んでつき、光沢があります。乾燥しているときは、触るとカサカサして荒い感じがします。仲間のホソミツヤゴケは、ヒロハツヤゴケほど扁平にならず、茎のまわりに葉をつけます。



ヒロハツヤゴケ

コゴメゴケは、幹に群落を作り、しばしばコダマゴケやタチヒダゴケと混生しています。長さ5mmくらいの枝に、卵型の小さな葉をつけます。葉の先は透明に尖っていますが、ルーペで見ないと識別は困難です。8月下旬から胞子体を作り始め、10月頃、2~3mmの短い柄の先には、米粒のようなグリーンの蒴がふくらんでいます。翌年4月になると蒴の蓋がはずれ、カップ状の蒴から胞子を放出します。



コゴメゴケ

コモチイトゴケは、細くて長い、ビロードのように柔らかいコケで、幹に垂れ下がって群落を作ります。小さな葉は、乾湿に関係なく、茎に密着しているため、幹からひげが生えている様に見えます。葉のつけ根付近に子(無性芽)をつけているのが名前の由来です。(山根)



コモチイトゴケ

## 研修会のご案内

- |  |   |
|--|---|
| ○ 9月 4日(水) 『秋の七草と自然探勝』<br>秋の七草にまつわる話と自然観察<br>※ 自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 : 森林インストラクター<br>駄賀 恒男           |
| ○ 9月 4日(水) 『イネ科植物の学習会』<br>秋のイネ科植物を観察しよう<br>※ 自由参加、無料、ルーペ持参   | 13:00～15:00 学習室 集合<br>コーディネーター:<br>駄賀 恒男                    |
| ○ 9月 6日(金) 『笑涯学習 40年と植物』<br>薬草、薬木、健康について学ぼう<br>※ 自由参加、無料、    | 10:00～12:00 学習室 集合<br>講師 : 広島国際大学 生涯学習自然園<br>前園長・薬学博士 神田 博史 |
| ○ 9月 14日(土) 『秋のバードウォッチング』<br><br>※ 自由参加、無料、双眼鏡持参             | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 : 日本鳥類保護連盟 会員<br>吉見 良一          |
| ○ 9月 19日(木) 『9月の自然探勝』<br>秋の気配を探そう<br>※ 自由参加、無料               | 10:00～12:00 学習展示館前 集合<br>講師 : 森林インストラクター<br>長井 稔            |

### ☆お知らせ・ご案内☆

#### ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ボード展示)

・日本画作品展

～ 9月 16日(月・祝)

・緑化センターで見られる

きのこ写真展

9月 21日(土)～10月 27日(日)

(ガラスケース展示)

・つつらふじ手作りカゴ作品展

9月 8日(日)～10月 25日(金)



「日本画作品展」より

#### ～森林公園イベント情報～

- 9月 1日(日) 『メンコで遊ぼう』 10:00～12:00・13:00～15:00  
オリジナルメンコを作って遊ぼう
- 9月 8日(日) 『ペットボトルロケットを打ち上げよう』  
ペットボトルを使ったロケットを作って飛ばそう  
(受付) 9:30～随時  
(実施) 午前の部 10:00～12:00・午後の部 13:00～15:00  
(参加費) 500円  
(対象) 小学生までの小人, 当日各部先着 30人



過去の「つつらふじ手作りカゴ作品展」より